

「わたしの前を歩み、全き者であれ」創世記 17 : 1-8

I 忍耐が必要な歩み。と同時に神は、私達に現れて下さる。「アブラムが九十九歳になったとき主はアブラムに現れ、こう仰せられた」：1。主が、アブラムに「わたしが示す地に行け」と言われた時、アブラムは75歳だった。12：4。本日の17：1には、アブラムが99歳になった時とある。24年の歳月が流れていた。神の約束が成就するプロセスには、忍耐が必要である。「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です」（ヘブル10：36）。私達も忍耐できるように祈りたい。

II 「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ」：1。1. 「わたしは全能の神である」。主は、この御名によって、人間にはできないと思われる事でも「全能の神」にはできないことはない、という事を示されている。私達は、この偉大な神に、造られ、命が与えられ、救われ、今日まで守られ、導かれている事を感謝したい。この偉大な方に祈れることを深く感謝したい。2. このお名前に続く神の御命令「わたしの前を歩み、全き者であれ」の前に、「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」15：6がある事を深く覚えたい。常に恵みが先で、恵みへの応答がある。まず、アブラム、そして私達に対して、主を信じる事により義と認められる信仰義認がある。神は、私達の行いによらず、主を信じる信仰を喜び、義（無罪、正しい）と認めて下さり、神に受け入れられ、神との関係が深められ続ける。私達は、欠点があるありのままに神に受け入れられ、驚くべき恵みに与かる。神が受け入れて下さった自分自身を自分でも受け入れる「自己受容」の恵みが始まる。神の愛で自分自身を受けれる時、他の人も受け入れる恵みが始まる。と同時に、神は、「そのまま、罪のままでいいんだよ」とは言われず、私達を温かく受け入れて下さる恵みだけではなく、神による「自己変革（神の前を歩み、神の喜ばれる全き者に変えられ続ける）」の恵みも下さる。新約聖書の順序も同じである。信仰義認による救いの恵みが先にあり、それで終わりではなく、御言葉、御霊なる神、神の愛ゆえの訓練により、私達が主の御姿に変えられ続ける恵みが続く事が記されている。

◎ ローマ人への手紙：①1-11章＝神の恵み、信仰による救い。②その計り知れない神の恵みに感謝しつつ神への応答としての礼拝と主の姿に「自分が変えられ続ける」恵み。「この世（の罪）と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえ知るために、心（思い）の一新によって自分を変えなさい（変えられ続けなさい）」ローマ12：2。

◎ コリント人への手紙：①「十字架のことば（あなたの罪の為に、主は十字架で死んで下さった）は、滅びに至る人々（神が差し出された救いを受け入れる気がない人々）には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力（永遠の滅びから私たちを救って下さる神の偉大な力）です」I コリント1：18。②「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」II コリント3：18。

◎ ガラテヤ人への手紙：①「聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、『あなたによってすべての国民が祝福される』と前もって福音を告げたのです。そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福（救

い)を受けるのです」 3 : 8, 9。②「御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」 5 : 16。

- ◎ ヘブル人への手紙：①「私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の御子イエスがおられるのですから信仰の告白を堅く保とうではありませんか」 4 : 14。②「霊の父は、私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるのですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます」

12 : 10, 11

3. 「わたしの前を歩み、全き者であれ」の意味。この意味が、全能の神の前に完全な者、欠点のない者となれという事なら、アブラハムにも、私達にも不可能である。では、この意味を掘り下げよう。「主の前を歩む」とは、いつも主の御顔（眼差し）を意識し、主の臨在のうちに生活するという事、つまり、すべての事を主との関係のうちにとらえて（雀一羽も御父の許しなしには地に落ちない、すべての事を偶然の事ではなく、神のご支配にある意味ある事ととらえて）生きるという事である。それと同時に、このように命令されているという事は、私達が、主の臨在の中を主の恵みによって歩むことができるという恵みである。この恵み（神の御手の中で神と共に歩める）の中で、「全き者であれ」という事は、完全な人間になれという事ではなく、欠点がある人間であっても「全き信仰をもって神に応答する者であれ」と言われているのである。主が全能の神であられる故に、アブラムに、そして私達にそのような信仰もお与えになることができるのである。私達が、私達のすべてを見抜いておられる全能の神の前に裸になり（何も隠さず正直になり）、御臨在の中に置いて下さる神に対して真実な信仰をもって応答する時、真のアイデンティティ（神に造られた本当の自分自身）を見い出すことが出来る。

- Ⅲ「あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである」：5。アブラムは、「高められた父」を意味したが、「アブラハム」は「多くの国民の父」を意味する。名の重要性は、今日と比較にならないほど大きかった。名は実質を表すものだった。アブラムが、アブラハムとなった事は、彼が今までの彼ではなくなった事、その性格、地位、役割が変わり、新しい出発点に立った事を意味する。ここで神が新しい名を与えられたことは、アブラハムの変化が神による事を意味している。ここに希望がある。私達が、自分の力で自分を変えようとしても無理であるが、主は、私達を変え続けて下さる。後にヤコブはイスラエル（創世記32：28）となり、シモンはペテロに変えられた。ヨハネ1：42。新しい名が与えられるとは、新しい性質（神の性質：愛、聖）が神によって与えられるという恵みである。「世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となる」Ⅱペテロ1：4。私達が、主を信じる時、聖霊なる神により、私達の霊が新しくなる新生の恵みを受ける。新生は、誕生であるから、完成、ゴールではない。イエス様の品性に変えられ続ける途上の者のクリスチャンの集まりが教会。互いに、主の姿に変えれつつある霊的な工事中なので、「ご迷惑をお掛け致します」という謙遜と赦し合いが必要。